

人間がおかげを受けてくれなければ、神も金光大神もうれしくない。人間がおかげを受けなくて苦しんでいるようでは、神の役目が立たない。人間が立ち行かなければ、神も金光大神も立ち行かない。

……「天地は語る」第三十一条……

解説

私達が信心させて頂いている「生神金光大神様、天地金乃神様」の御教えには、「神が罰を当てる」とか「神がお怒りになる」とかの文言は全く見当たりません。それどころか、この御理解の如く「人間が助かり、立ち行かなければ、神も金光大神も助からず、立ち行かない」とまで仰せになる、正に私達人間本体の親であり「親神様」そのものであります。なお、この御理解には私達に「どうぞ真一心に信心して、おかげを頂き助かってくれよ！」との生神金光大神様、天地金乃神様の真に切なる願いが込められています。故に私達信奉者は、その願いにお答えしなければなりません。その為には、「神人あいよかけよの生活運動」の「願い」を一層真摯に頂くことであります。今こそ「神のおかげにめざめ、お礼と喜びの生活をすすめ、神心となって人を祈り助け導く。」べく、信心生活に取り組ませて頂きましょう。